

第 145 回

中小企業景況調査報告書(概要版)

平成 27 年 9 月～ 7 月実施

平成 27 年 10 月～12 月予測

福岡県商工会連合会

この調査は、中小企業の景気動向について、その実態と要因を四半期ごとに分析し、業種間の比較によって差異分析を行い、その分析結果に基づき、今後の経営活動の健全な発展を図るために業種別の景況情報を提供する。

1. 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接聞き取り調査
2. 調査時点 平成 27 年 9 月 1 日
3. 調査対象時期 平成 27 年 7 月～9 月
4. 調査対象企業 久山町・筑紫野市・宗像市・大刀洗町・八女市・柳川市・遠賀町・築上町・飯塚市・添田町の 150 企業
5. 回答企業 149 企業 (有効回答率 99.3%)

製造業		建設業		小売業		サービス業	
企業数	構成比	企業数	構成比	企業数	構成比	企業数	構成比
28	18.8%	22	14.8%	42	28.2%	57	38.2%

☑ 県下産業全体 (業況:売上額 D.I)

➔ **まだまだ厳しい状況であるが、製造業を除き全体的に回復の兆しも見える福岡県の中小企業景況**

期間	製造業		建設業		小売業		サービス業	
平成 26 年 4 月～6 月		△13.3		△15.0		△35.0		△23.8
平成 26 年 7 月～9 月		△36.7		△20.0		△36.7		△17.0
平成 26 年 10 月～12 月		△3.3		△35.0		△58.5		△28.7
平成 27 年 1 月～3 月		△16.7		△30.0		△53.6		△15.5
平成 27 年 4 月～6 月		△21.4		△23.9		△16.6		△16.9
平成 27 年 7 月～9 月		△10.7		△20.0		△16.7		△15.8

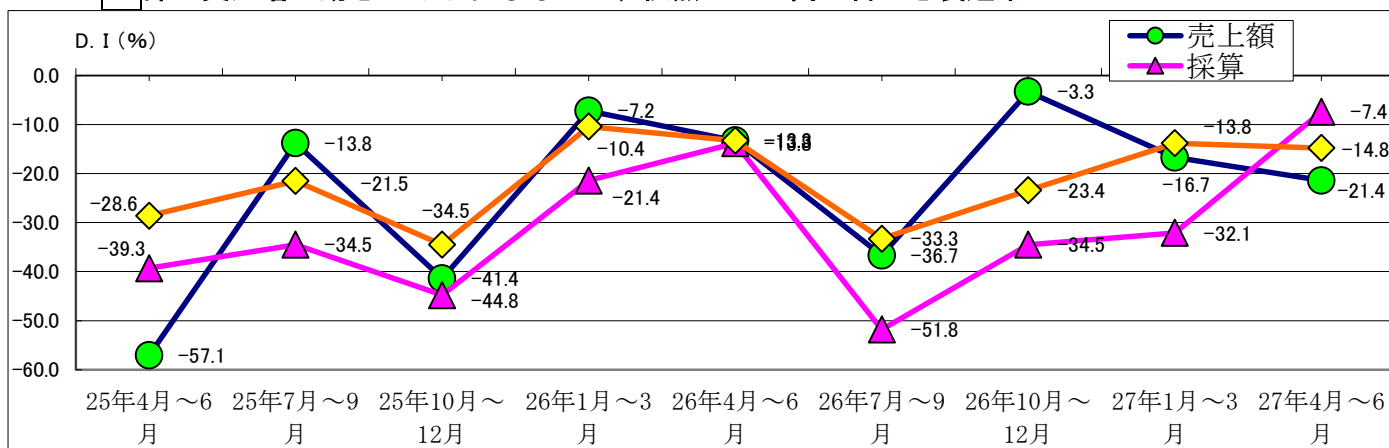
<天気図の見方>

D. I 値	100.0～30.1	30.0～10.1	10.0～△10	△10.1～△30	△30.1～△100
表示	【快晴】 +30.1 以上	【晴れ】 +10.1 ～30.0	【薄曇り】 △10.0 ～10.0	【曇り】 △30.0 ～△10.0	【雨】 △30.1 ～△100

県下産業全体の売上額 D. I 値を前回調査時 (平成 27 年 4 月～ 6 月) の D. I 値と比較すると売上額は 3.0 ポイントの改善、採算は 0.4 ポイントの悪化、資金繰りは 8.1 ポイントの悪化となっており、売上額の D. I 値は改善が続いているものの、採算と資金繰りの D. I 値は悪化に転じている。

☑ **製造業**（有効回答数 28 企業）

➡ **一部に受注増の動きがみられるものの、依然コスト高に苦しむ製造業**



<調査企業が感じている景気判断コメント>

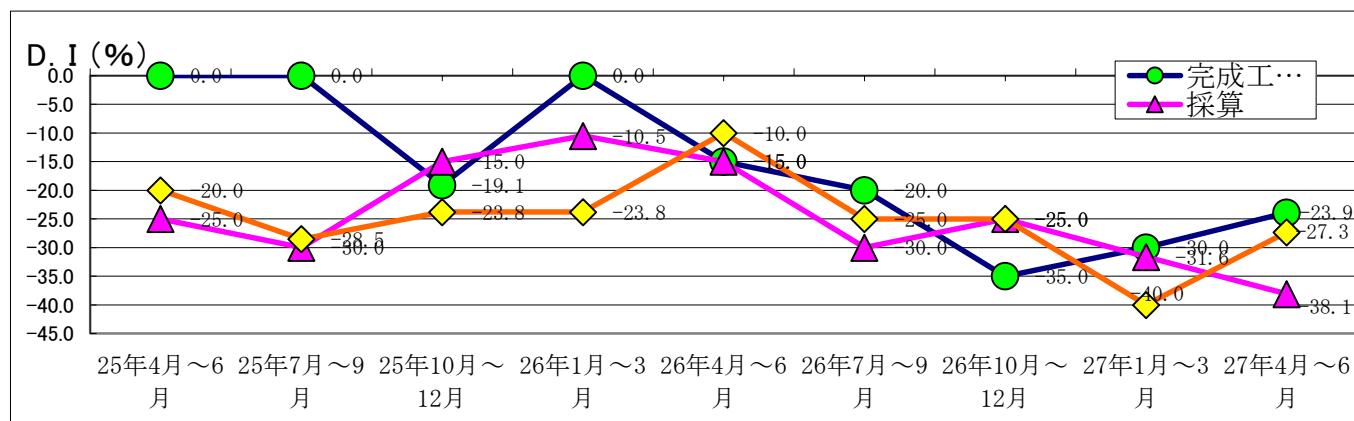
- ・大手の低価格商品が伸び、中小企業メーカーの商品が厳しい状況にある。（酒類製造業）
- ・現状では多種少量の受注が多く、目の前の仕事に追われ景気上昇を感じられない。（鉄工業）
- ・海外の安価な製品が進出のため、原材料の高等により採算が合わない受注が増加してきている。（工具製造業）

<経営上の問題点>

前期		今期	
第1位	原材料価格の上昇 25.0%	第1位	原材料価格の上昇 29.6%
第2位	需要の停滞 21.4%	第2位	需要の停滞 14.8%
第3位	製品ニーズの変化 14.3%	第3位	生産設備の不足・老朽化 14.8%

☑ **建設業**（有効回答数 22 企業）

➡ **年度末の受注はあるものの、資材価格高の影響で収益が悪化した建設業**



<調査企業が感じている景気判断コメント>

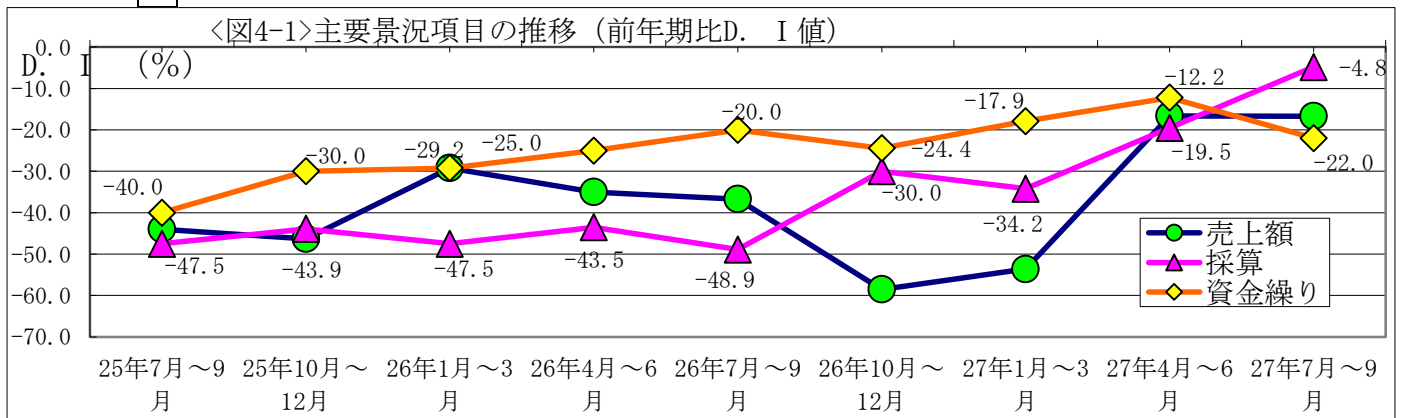
- ・見積り依頼の減少・受注量の減少により、同業他社との価格の競争が激化してきている。（鉄骨・鉄筋工事業）
- ・民間需要の停滞の長期化により、業績は悪化の道をたどり続けているため、予測も立て難い。（内装工事業）
- ・マンション等の建設過剰で今後の大幅な需要減少を懸念する。また材料・燃料高騰も気になる。（木造建築工事業）

<経営上の問題点>

前期		今期	
第1位	民間需要の停滞 22.2%	第1位	熟練技術者の確保難 25.0%
第2位	材料価格の上昇 16.7%	第2位	官公需要の停滞 20.0%
第3位	請負単価の低下、上昇難 16.7%	第3位	民間需要の停滞 15.0%

☑ 小売業（有効回答数 43 企業）

➔ **商** 圏人口の減少や市場の変化などの影響で、依然厳しさが続く小売業



＜調査企業が感じている景気判断コメント＞

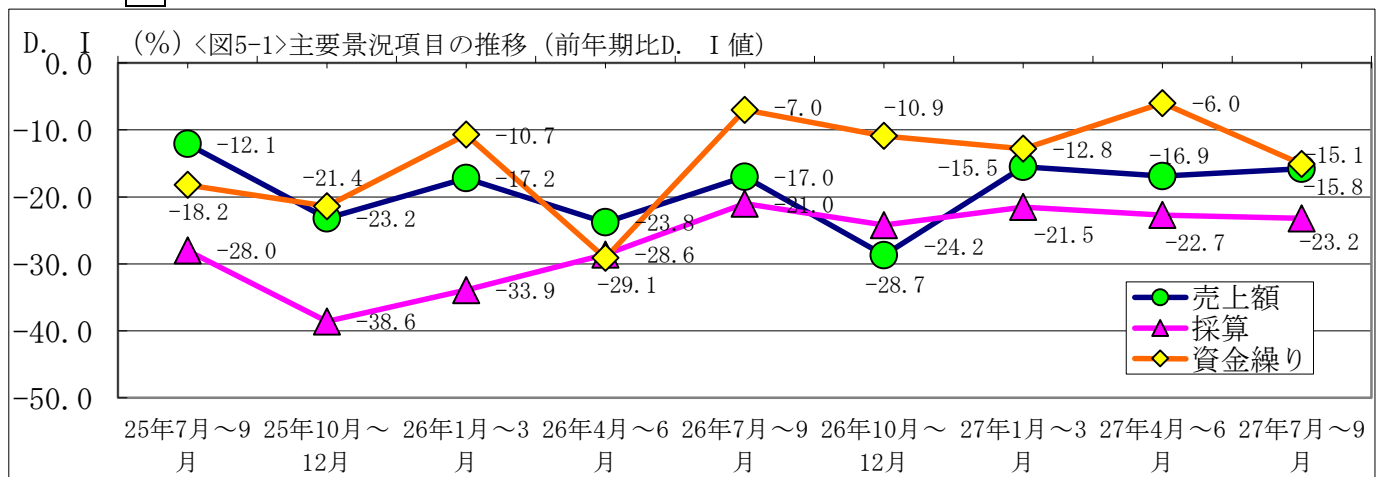
- ・高齢者や若者の人口減少に伴った客数の低下が見られる。（各種商品小売業）
- ・低燃費カーの普及が進んでおり、販売数量（燃料）が減少している。（燃料小売業）
- ・酒類販売の規制緩和以降、安売り合戦が始まり売上は年々減少傾向にある。（各種商品小売業）
- ・ポイントを導入し、効果があり売上は上向き傾向にある。（眼鏡小売業）

＜経営上の問題点＞

前期		今期		
第1位	大型店・中型店進出による競争の激化	21.1%	第1位 大型店・中型店進出による競争の激化	21.6%
第2位	購買力の他地域への流出	21.1%	第2位 需要の停滞	16.2%
第3位	消費者ニーズの変化	18.4%	第3位 仕入単価の上昇	16.2%

☑ サービス業（有効回答数 57 企業）

➔ **全** 体的に横ばいが続く低迷しているサービス業



＜調査企業が感じている景気判断コメント＞

- ・一定期間に仕事が集中することもあり従業員を雇用したいが、売上の不安定要素も強く、雇用の固定費が心配で外注などを検討している。（自動車整備業）
- ・ネットの集客効果は高く全体的に客数が増加したものの客単価は伸びておらず、昨年同様の売上である。（飲食業）
- ・経営努力をしているが、人口減少や少子高齢化により顧客減少が危惧される。（美容業）

＜経営上の問題点＞

前期		今期		
第1位	需要の停滞	18.0%	第1位 店舗施設の狭隘・老朽化	15.7%
第2位	利用者ニーズの変化	16.0%	第2位 利用料金の低下、上昇難	13.7%
第3位	従業員の確保難	14.0%	第3位 従業員の確保難	13.7%